

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和元年十一月度 入選句 (投稿総数三千五百五十二句・小中学投句数三千六十八句)

特選

選者 長町 誠司

どんぐりもかぶっているよべれーぼう 大垣市 とみだ りお(小二)

どんぐりは秋の季語。種類も色々ありますが、子供たちはみんな大好きです。拾ってきたどんぐりに、目や鼻を書き入れたり、工作の模様に使ったり、ままごとのお金がわりにしたりして遊びます。この句、帽子と言わずに、ベレー帽と、より具体的に捉えた所に、作者の感受性を感じます。ベレーぼうのイメージは芸術家。きつと作者も豊かな才能の持主にちがいありません。

受験 生 冬 支 度 と は 勉 強 だ 加茂郡川辺町河村 真祐(中三)

中学三年生の作者。心中の声が聞こえてくる句です。主なる季語の受験生に対し、従なる季語の冬支度は、冬を挟んだ秋の季語。この間隔が受験生の心構えを想像させてくれます。また、断定を表す句尾の「だ」に合格するために、しっかり前準備しておかねばという作者の強い意志を感じます。

台風 一 過 私 の 空 も あ の 町 へ 加茂郡川辺町加藤 小乃羽(中三)

今年の台風による被害は甚大でした。各地で洪水や土砂崩れが発生し、交通網は遮断され、家々は浸水の跡片付けに追われました。私の句友も避難所生活を強いられました。そんなこともあったからか、この句がすんなりと私の心に入ってきました。台風一過とは台風が過ぎ去り、晴天が広がること、あるいはその状態を指します。被害が少なかった私の町の空も、あの惨状の町に繋がっているんだなという感慨。優しい作者。

秀逸

- もみじたちにほんのちからみせつけて 大垣市 森井 康央(小二)
- さつまいもはたけのしたであみだくじ 大垣市 岡田 穂香(小二)
- 赤とんぼ夕日もいっしよに連れてきた 大垣市 大橋 美空(小五)
- たきの音私も犬も聞いている 大垣市 山口 綾菜(小六)
- たきの音静かな川へ落ちていく 大垣市 阪野 あゆ菜(小六)
- 秋の雨静かに増える水たまり 大垣市 中野 菜々実(小六)
- 秋の雨水たまりからの空の世界 大垣市 松尾 琉里(小六)
- 虫の音がうるさいようで美しい 加茂郡川辺町 木下 和奏(中二)
- 紅葉が日本の山を燃やしてる 加茂郡川辺町 木下 琉斗(中三)
- つかまえないばくもいっしよにばったとび 大垣市 伊藤 晟呀(小二)

入選

ながそでとはんそでまようあきのあさ 大垣市 石谷 颯志(小二)  
 さいごまで本気で走る運動会 大垣市 杉田 圭祐(小五)  
 爽かな風にふかれてしゆくだい 大垣市 宮本 サユリ(小六)  
 ふと聞くとすぐ聞こえるたきの音 大垣市 高橋 朋寛(小六)  
 運動会二つの優勝つかみとる 大垣市 金森 凌雲(小六)  
 遠足の弁当の友イチョウの木 加茂郡川辺町 渡 辺 真(中三)  
 弟が輝く最後の運動会 加茂郡川辺町 伊藤 仁愛(中三)  
 どんぐりのぼうしがいつもとれてるよ 大垣市 はやぎき はな(小二)  
 もぐらみたいぜったいでないぞふゆぶとん 大垣市 かのう しほ(小二)  
 赤トンボほしたふとんでひと休み 大垣市 中嶋 大智(小二)

入選

さつまいもパカツとわればあきのいろ 大垣市 竹中 ゆら(小二)  
 いいにおいふたをあけたらくりごはん 大垣市 松村 莉央(六才)  
 あきになりわたしもかげもせがのびた 大垣市 つつみ えみな(小二)  
 あかとんぼたかくとんではしたにくる 大垣市 まえむら なな子(小二)  
 うん動会スローガンにむかって走りぬく 大垣市 木下 優花(小三)  
 朝おきてさわやかな風のみこんだ 大垣市 早野 莉央(小三)  
 いなずまがおおごえ出してないている 大垣市 山岸 あいか(小三)  
 新米に母はぜったいたよりすぎ 大垣市 浅野 夏実(小四)  
 おいしいねうんどうかいのおべんとう 大垣市 きくち ひかる(小二)  
 どんぐりはぼうしをかぶりおでかけだ 大垣市 難波田 柚依(小三)

選者吟

どんぐりや転校生と仲良しに

せいじ